

真珠湾攻撃騙し討ち説の反証

真珠湾史実研究会代表 白松繁

報告日:2022年4月16日

NPO法人「インテリジェンス研究会」

[概要]

真珠湾攻撃に関し、昨年12月8日の80周年特別企画として新聞、テレビ、雑誌等で大きく取り上げられ、歴史に造詣の深い各氏による見解が表明されました。然しながらルーズベルト大統領が事前に察知していて、「敢えて最初の一弾を日本に撃たせた」などの言説は「陰謀論」「歴史修正主義」として扱われ、「学問的に取り上げる価値もない」と80年前の米政府筋の「卑怯な騙し討ち」だったとする見解から一步も出るものではありませんでした。斯くの如く岩盤化してしまった通説に対し、筆者は主として日米の公文書館をベースに11項目の反証を試み、最後に纏めとして結論を加えたので報告します。

- 反証 1 : だまし討ちの根源と日本外交失態の背景
- 反証 2 : 日本機動部隊ヒトカップ湾出撃と米側の察知
- 反証 3 : 外交暗号解読で事前察知、当日哨戒態勢急緩和
- 反証 4 : 当日の空母不在泊は偶然か
- 反証 5 : 無線封止不徹底と偽電発信の実態
- 反証 6 : 日本海軍 D 暗号 (JN-25B) 部分被解読実態
- 反証 7 : 吉川猛夫の真珠湾艦艇情報は純軍事情報
- 反証 8 : 米政府関係者の証言録と議会証言録
- 反証 9 : 東京裁判判決「騙し討ち説」を否定
- 反証 10 : 真珠湾攻撃「裏口参戦説」の否定
- 反証 11 : 真珠湾攻撃「成功説」の反証

[結論]

反証 1 : 騙し討ちの根源と日本外交失態の背景

- 1) 騙し討ちの根源
- 2) 日本外交の失態
 - ・日米平和交渉の失敗、米側問題点の認識不足
 - ・近衛文麿首相とのトップ会談
 - ・「ハルノート」はアメリカの最終案ではなかった
 - ・アメリカ国民は戦争を望んではいなかった
 - ・日米開戦回避失敗

反証 2 : 日本機動部隊ヒトカップ湾出撃と米側の察知

- 1) 在日米大使館参事官ユージン・ドーマンのトルピード情報
- 2) 陸軍長官H・スチムソンの1941年11月25日の日記
- 3) 11月25日夕刻、米海軍作戦部が航路変更命令を発令
- 4) 北方海域での演習中止命令
- 5) ハロルド・スターク大将のヒトカップ証言
- 6) 書籍「天寧, 単冠湾の追想 飛行場建設と連合艦隊出撃」
- 7) ヒトカップ電の傍受・解読で日本の動向を察知
- 8) グルー大使の情報網について 別添参照
- 9) 山本長官の「ヒトカップ集結命令と出撃命令」

反証 3 : 外交暗号解読で事前察知可能、当日の哨戒態

勢急緩和

- 1) 外交暗号解読で Where, How, When の察知
 - (1) Where (場所)
 - (2) How (方法)
 - (3) When (何時)

- 2) マーシャル大将乗馬説の虚
 - (1) 従來說
 - (2) 現在説
 - (3) キンメルの嘆息
 - (4) 青天の霹靂説の破綻

- 3) 当日の哨戒態勢の超緩和と北方海域の索敵無用の怪
 - (1) PB偵察機49機中14機(ハワイは7機)出動
 - (2) アリュウシャン方面の長距離哨戒中止
 - (3) スターク大将の哨戒命令

反証 4 : 当日の空母不在泊は偶然か

- 1) 2空母を含む艦船33隻の直前出航の実態

2) 3カ月前作成艦隊運用計画の矛盾点

3) エンタープライズの艦速ダウンの実態

反証5：日本海軍無線封止不徹底と偽電発信の実態

- 1) 米海軍傍受記録 p 149 「表8 無線封止発令後の艦船
発信記録（米海軍傍受記録26通）」（巻末添付15、表8）
- 2) 真珠湾奇襲前連合艦隊電令作発信と傍受記録（拙著 p 1
51、表14）日本発信も無線封止違反
- 3) 真珠湾前の米海軍作成報告（解読エビデンスとなる）「拙
著 p 150、添付6、p 156、添付5」
- 4) 偽電発信と米側対応、上記26通中に偽電文相当ゼロ

反証6：日本海軍D暗号 JN-25B 部分被解読実態

80年後に至るも「米側は真珠湾前、日本海軍暗号を解読
出来ていなかったのも事前察知は不可能だった」との通説
が主流を成している。以下事実に基づく史料で本通説の
見直しに迫る。

- 1) D暗号解明経過と関連記録
- 2) D暗号部分解読根拠
- 3) 「戦後解読」は「戦前非解読」とは限らず

反証 7 : 吉川猛夫の真珠湾艦艇情報は軍事情報

- 1) 吉川猛夫のスパイ活動
- 2) 東郷外相の電報
- 3) 吉川猛夫の最終情報の決定的情報と誤訳

反証 8 : 米政府関係者の証言録と議会証言録

- 1) スターク海軍大将の証言 (拙著 p 1 1 3)
- 2) マーシャル大将の異常行動
- 3) 両院議会真珠湾攻撃調査委員会 (拙著 p 1 1 7)
- 4) キンメル長官遺族による名誉回復運動の成果 (拙著 p 1 2 8)

反証 9 : 東京裁判判決「騙し討ち説」否定

- 1) 意外な判決の背景
- 2) 10項目提案「ハルノート」のネライ

反証 10 : 「裏口参戦説」の否定、真珠湾攻撃はアメリカの正面作戦

- 1) 裏口参戦説提唱者

- 2) 三国同盟の誤解釈
- 3) 日米確執の歴史
- 4) 米独確執の歴史
- 5) 真珠湾攻撃はアメリカの正面作戦
- 6) 英諜報機関B S C (英国安全保障調整局) 工作
- 7) 裏口参戦説否定ー真珠湾はアメリカの正面作戦だった

反証 1 1 : 真珠湾攻撃成功説の反証

- 1) 真珠湾攻撃大成功説
- 2) 超大国アメリカに対しをなぜ先制攻撃したのか
- 3) アメリカとは戦争しない選択があった。
- 4) ルーズベルト、チャーチル、蒋介石、スターリンの喜悦
- 5) 空母 (航空機) 主体攻撃は日本の真珠湾が最初ではない

[結論]

以 上